



小善は大悪に似たり

大分市医師会

宇都宮 徹

現在、WBC (World Baseball Classic) 2026が開催中です。学生時代に野球部だった私は、早速Netflixを契約して日本代表を応援しています。日本は1次ラウンドを突破し、準々決勝ではベネズエラとの対戦が予定されています。

さて、前回のWBC2023で日本代表の監督を務めた栗山英樹氏が大切にしている言葉に、「小善は大悪に似たり、大善は非情に似たり」があります。この言葉は、京セラ創業者である稲盛和夫氏が説いた京セラフィロソフィとしても広く知られています。

稲盛氏によれば、人間関係の基本は愛情をもって接することですが、それが盲目的な愛であってはなりません。上司と部下の関係でも、信念もなく部下に迎合する上司は、一見すると愛情深いように見えても、結果としては部下の成長を妨げ、むしろ本人を不幸にしてしまうかもしれません。これが「小善」です。一方、信念をもって厳しく指導する上司は、時に冷たく非情に見えても、長い目で見れば、部下を大きく成長させることに繋がるかもしれません。これが「大善」です。すなわち「相手にとってどうあることが本当に良いのかを見極めること」こそが、真の愛情だという教えです。

WBC2023では、大谷翔平選手を中心とした日本代表が米国を下し、世界一となった際には日本中が歓喜に沸きました。大会のずっと前から代表メンバーの選定に奔走し、素晴らしいチームをまとめ上げ、世界一へと導いた栗山氏の手腕については多くの野球ファンの知るどころです。実力が拮抗する世界大会では、監督として重要な決断に迫られる場面は、試合中のみならず数多くあります。温厚で知られる栗山氏だからこそ、「小善は大悪に似たり」という言葉を胸に刻みながら采配を振るっていたに違いありません。

この言葉は、病院における若手医師の教育にも通じるものがあるように感じています。特に初期研修医の教育においては、医師としての知識や技術だけでなく、社会人としての基本的な姿勢を身につけてもらうことが重要です。ところが、現在の医師臨床研修マッチング制度のもとでは、医学部生から選んでいただけるようにと、病院側が迎合する傾向も見られます。さらにハラスメントが社会的に注目される中で、指導のあり方は以前にも増して困難かつ複雑になっています。それでも、臨床研修病院としては、決して「小善」に陥ることなく、時には勇気をもって「非情（大善）」を貫くことも必要かもしれません。これからの日本の医療を担う若い医師たちだからこそ、真の愛情をもって温かく、そして時に厳しく育てていきたいものです。

この原稿が皆さまのお手元に届くころにはWBC2026の結果は出ているものと思います。果たして、日本中が再び歓喜に沸いたのでしょうか。